

環境保全型農業直接支払交付金

もうかるブランド推進課

環境保全型農業直接支払交付金について

もうかるブランド推進課

○概要

環境問題に対する国民の関心が高まる中、農業生産全体の在り方を環境保全を重視したものに転換するとともに、農業分野においても「地球温暖化防止」や「生物多様性保全」に積極的に貢献していくため、環境保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者に対して、直接的な支援を行う事業

平成23年度から国の制度として実施

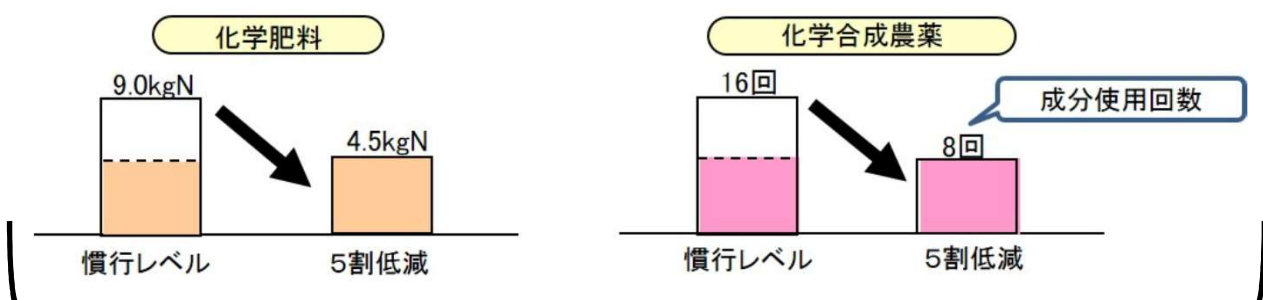
交付金は、国が1/2、県及び市町村がそれぞれ1/4ずつを負担し、農業者に配分

○対象者

農業者の組織する団体、一定の条件を満たす農業者（複数の農業者で構成される法人など）

○支援の対象となる取組

化学肥料・化学合成農薬の使用を県の慣行レベルから5割以上低減する取組と合わせて行う、「地球温暖化防止」や「生物多様性保全」に効果が高い農業生産活動等



+ 下表の取組

支援対象の取組	交付単価 (10aあたり 最大/円)
有機農業	12,000
このうち、炭素貯留効果の高い有機農業を実施する場合に限り、2,000円を加算	14,000
そば等雑穀・飼料作物	3,000
堆肥の施用	4,400
カバークロップ	6,000
リビングマルチ	5,400
うち小麦・大麦等	3,200

支援対象の取組	交付単価 (10aあたり 最大/円)
草生栽培	5,000
不耕起播種	3,000
長期中干し	800
秋耕	800
冬期湛水（地域特認）	8,000

【取組拡大加算】

有機農業の新規取組者の受入れ・定着に向けた栽培指導等（交付単価：4,000円/10a）

○交付状況

項 目	平成 27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	点 検
実施市町村数	13	13	14	12	11	13	12	12	令和4年度の実施市町村数及び実施件数は、令和3年度と同程度であった。 実施面積は、令和2年度からの第2期対策において、有機農業の交付単価の増額などにより、増加傾向にあり、令和4年度は過去最大の181haとなった。 交付額についても、単価の高い有機農業の面積拡大に伴い増加しており、令和4年度は過去最高の19,627千円となった。
実施件数	43	42	43	35	29	41	40	39	
実施面積 (ha)	119	152	177	119	112	146	151	181	
交付額 (千円)	9,395	11,075	11,463	9,269	8,668	16,066	16,677	19,627	

○実施面積上位市町村

順位	平成 30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度		点 検
					面積 (ha)	主な取組	
1	小松島市	小松島市	小松島市	小松島市	58	有機農業	実施面積の上位市町村は、阿南市、小松島市、鳴門市の順となった。 阿南市及び小松島市では、水稻作の有機農業の取組が多く、面積は2市で県内全体の過半を占めている。 鳴門市は、れんこん作の冬期湛水及び水稻作の有機農業が主な取組である。
2	鳴門市	阿南市	阿南市	阿南市	44	有機農業	
3	阿南市	鳴門市	鳴門市	鳴門市	20	冬期湛水 有機農業	

○交付額上位市町村

順位	平成 30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度		点 検
					交付額 (千円)	主な取組	
1	小松島市	小松島市	小松島市	阿南市	6,806	有機農業	交付額の上位市町村は、阿南市、小松島市、鳴門市の順となった。 単価の高い有機農業の実施面積が多いことが要因となっている。
2	阿南市	阿南市	阿南市	小松島市	4,817	有機農業	
3	鳴門市	鳴門市	鳴門市	鳴門市	1,913	冬期湛水 有機農業	

○支援対象取組の状況

取組内容	項目	平成 27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	点 検	令和4年度 実施面積 上位市町村
有機農業	実施件数	36	32	34	29	23	34	33	34	有機農業は、水稻のほか、野菜や果樹で行われている。 令和2年度からは、単価の増額もあって面積が拡大しており、令和4年度は面積・交付額ともに最大となった。本県の実施面積の77%を占めている。	1 阿南市
	実施面積 (ha)	88	99	109	97	87	117	122	139		2 小松島市
	交付額 (千円)	7,001	7,608	7,850	7,745	6,993	14,139	14,824	16,970		3 石井町
カバークロップ	実施件数	6	6	8	6	7	6	6	8	カバークロップの取組は、水稻作で多く、近年、拡大傾向が続いており、令和4年度は実施面積・交付額ともに最大となった。 本県では、有機農業に次いで2番目に多い取組となっている。	1 小松島市
	実施面積 (ha)	8	9	12	8	11	14	15	27		2 吉野川市
	交付額 (千円)	606	743	867	658	919	835	926	1,663		3 阿南市
冬期湛水 (地域特認)	実施件数	12	11	10	4	2	2	2	2	地域特認である冬期湛水の取組は、全て鳴門市のれんこん作において行われた。	1 鳴門市
	実施面積 (ha)	20	36	28	14	13	14	12	12		2 -
	交付額 (千円)	1,634	2,379	1,586	866	729	1,056	915	980		3 -
秋耕	実施件数	-	-	-	-	-	2	2	2	令和2年度から新たに追加された取組である秋耕は、2件の取組があった。	1 石井町
	実施面積 (ha)	-	-	-	-	-	1	2	1		2 小松島市
	交付額 (千円)	-	-	-	-	-	8	13	11		3 -
堆肥の施用	実施件数	1	1	2	0	1	1	0	0	近年、堆肥の施用の取組のみで支援を受ける生産者は少なく、令和3年度からは実績がない。 有機農業等の取組に移行したことが要因と考えられる。	1 -
	実施面積 (ha)	4	8	27	0	1	1	0	0		2 -
	交付額 (千円)	154	345	1,160	0	27	28	0	0		3 -

○交付金の効果

1 地球温暖化防止効果

令和4年度に実績があった取組のうち、「有機農業」、「カバークロープ」及び「秋耕」は、有機物を土壌に施用することで、土壌炭素貯留量を増加させ、間接的に大気中のCO₂の削減に資するなど、地球温暖化防止効果が期待される。
これらの取組は、令和元年度（第1期最終年度）の98haから令和4年度には168haに増加しており、地球温暖化防止に資する取組が拡大している。
農林水産省が令和4年度に実施した「地球温暖化防止調査」の結果を用いて、慣行栽培と比較した温室効果ガス削減量（CO₂換算）を算定すると、令和4年度は約217tCO₂となる。

2 生物多様性保全効果

令和4年度に実績があった取組のうち、「有機農業」及び「冬期湛水」は、農林水産省が令和3年度に実施した「生物多様性保全効果測定調査」により、生物多様性保全効果が確認されている。
これらの取組は、令和元年度（第1期最終年度）の100haから令和4年度には152haに増加しており、生物多様性保全に資する取組が拡大している。
鳴門市では、当交付金も活用しながら、れんこん作の水田において、化学農薬の使用低減と合わせて「冬期湛水」を実施しており、生物多様性の保全により、国の特別天然記念物「コウノトリ」の定着に役立っている。

3 その他の効果

当交付金の推進活動として、農業者が農作業体験による地域住民との交流を実施し、環境保全型農業に対する理解促進が図られている。